



# たくさんの衛星を打ち上げるための仕組み

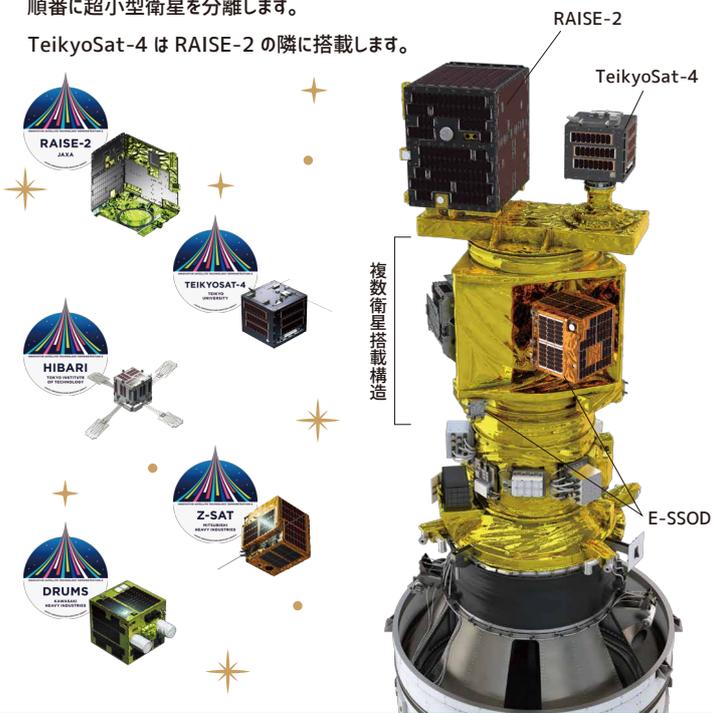
5号機でもたくさんの人工衛星を打ち上げるため、複数衛星搭載構造 (ESMS) やキューブサット放出装置 (E-SSOD) を活用します。どうやって複数の衛星を搭載し、分離をしていく仕組みをご紹介します。

## 複数衛星搭載構造 (ESMS)

複数衛星搭載構造には HIBARI、Z-Sat、DRUMS の3つの超小型衛星を120度づつ配置し搭載します。

衛星放出の際は、ロケットの軌道と姿勢を変え、放出後の衛星にぶつからないように順番に超小型衛星を分離します。

TeikyoSat-4 は RAISE-2 の隣に搭載します。



## キューブサット放出装置 (E-SSOD)

国際宇宙ステーションで利用実績のある放出機構「J-SSOD」をもとに、1Uタイプキューブサットを最大3機搭載可能な機構として開発し、複数衛星搭載構造の下部に3式取り付けられます。

ロケットからの信号により衛星ロックドアを開放し、キューブサットを放出します。

5号機に搭載されるキューブサットは ASTERISC (3U)、ARICA (1U)、Advanced OBC of Nanodragon(3U)、KOSEN-1(2U) の4機です。

